

# まとめの問題

## 1 ( ) に当てはまる適切な語句を、ア～コの中から選びなさい。

- (1) 人は、体温が一定でないと健康に影響がおよぶため、体に (①) の量を調節して体温を (②) ための仕組みがある。
- (2) 体の調節機能をはたらかせて周りの環境の変化に体の状態を対応させることを (③) と いう。私たちの体には、一定の範囲内で環境の変化に (③) する (④) が備わっている。
- (3) 環境の変化が大きかったり、急激であったりすると、私たちの体は (③) できなくなり、環境の変化が (⑤) をこえると、健康に影響が出る。
- (4) 暑さ、寒さの感じ方には、気温、湿度、(⑥) の3つの条件（温熱条件）が関係しており、快適に能率よく活動するためには、(⑦) や冷暖房設備などの調節が必要になる。
- (5) 私たちが活動する場合には、物がよく見え、目が疲れにくい一定の範囲の (⑧) が必 要である。適切な (⑧) の範囲は、学習や作業などの活動の種類によって (⑨) 。
- (6) (⑧) が十分でなかったり、明る過ぎたりする場合は、(⑩) などを使って (⑧) を調節する必要がある。

- |            |           |       |         |
|------------|-----------|-------|---------|
| ア. 明るさ     | イ. 一定に保つ  | ウ. 衣服 | エ. 気流   |
| オ. 照明やカーテン | カ. 出入りする熱 | キ. 適応 | ク. 適応能力 |
| ケ. 適応能力の限界 | コ. 違う     |       |         |

## 2 次の文のうち、熱中症の予防として正しいものに○をつけなさい。

- (1) ( ) 環境条件を把握し、それに応じた運動、水分補給を行う。
- (2) ( ) 急に暑くなった日には、積極的に運動を行う。
- (3) ( ) 個人の条件を考慮する。
- (4) ( ) 服装に気をつける必要はない。
- (5) ( ) 具合が悪くなったら早めに運動を中止し、必要な処置をする。

## 3 ( ) に当てはまる適切な語句を答えなさい。

- (1) 室内の空気は、衣服などのほこりや人の呼気、暖房機器などから出る (①) などで汚れる。 (①) の濃度は室内の空気の (②) を知る目安になる。
- (2) 室内の汚れた空気を新鮮な空気と入れ換えることを (③) という。
- (3) (④) は、物が不完全燃焼したときに発生する無色・無臭の気体で、血液中の (⑤) と 強く結合する性質がある。
- (4) 少量でも (④) を吸うと、酸素と (⑤) との結合が妨げられ、脳をはじめとする全身 で酸素が不足し、(⑥) を起こす。

①	②	③
④	⑤	⑥

## 4 ( ) に当てはまる適切な語句を、ア～ケの中から選びなさい。

- (1) 体内に入り出す水分の量はバランスが取れているが、(① ) (脱水) と激しい喉の渴きや頭痛、(② ) などの症状(脱水症状)が現れる。水は、(③ ) や健康にとって大切なはたらきをしている。
- (2) 水が安全に供給されるよう、飲料水の水質には一定の基準である(④ ) がある。水道の水は、(⑤ ) で浄化された後、(⑥ ) によって(④ ) を満たしていることが確認された上で供給されている。
- (3) 水は、飲料用や(⑦ ) としてだけでなく、学校や病院などの(⑧ )、農業や工業などの(⑨ ) としても使われている。

ア. 公共用水 イ. 産業用水 ウ. 浄水場 エ. 水質基準 オ. 水質検査  
カ. 水分が失われる キ. 生活用水 ク. 生命の維持 ケ. めまい

## 5 ( ) に当てはまる適切な語句を、ア～クの中から選びなさい。

- (1) 毎日の生活で台所や風呂などから流された(① ) や、私たちの体から排泄された(② ) (ふん便・尿) は、下水道が完備されている地域では(③ ) で処理される。
- (2) 家庭や学校、職場、施設などから出されるごみは、回収された後、焼却または(④ ) という方法で処理される。また、一部は資源ごみとして(⑤ ) されている。
- (3) 私たちが身近に取り組むことのできる(⑥ ) への対策の一つに、家庭や地域から出されるごみの問題がある。
- (4) (⑤ ) できないごみと資源となる物を(⑦ ) することで、ごみの量を減らし、資源を循環させて利用する(⑧ ) の推進が求められている。

ア. 埋め立て イ. 環境汚染 ウ. 下水処理場 エ. 再利用  
オ. し尿 カ. 循環型社会 キ. 生活雑排水 ク. 分別回収

## 6 次の文のうち、正しいものには○を、誤っているものには×をつけなさい。

- (1) ( ) 近年は、ごみの焼却施設や埋め立て地の処理能力はまだ限界に近づいていないため、大きな問題にはなっていない。
- (2) ( ) 生活排水やごみが適切に処理されないと私たちの健康に害を与えるため、下水道をはじめ性能のよい合併処理浄化槽や焼却・処分施設を普及させ、廃棄物の種類に応じて衛生的に処理することが必要である。
- (3) ( ) 私たちが生活のなかで、ごみを減らす工夫をし、油は下水に流さないなど適切な処理を心掛けることが、廃棄物を衛生的に管理することにつながる。
- (4) ( ) 1993年に廃棄物法が制定され、自然環境を保全し、公害を発生させない社会づくりを世界各国と協力しながら進めていくことが定められた。
- (5) ( ) 私たち一人一人が、毎日の生活でできることをしっかりと実践していくことが、世界の人々の健康と環境を守ることにつながる。